

熊本高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	芸術
科目基礎情報						
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	共通教育科 (八代)		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に使用しない。教材は各教員が準備する。					
担当教員	時松 雅史,東田 洋次,道園 達也,藤本 洋一,関 文雄,岩下 いずみ,濱田 さやか,上土井 幸喜,五十川 読,小鉢 暢夫,四宮 一郎,福井 由美子,磯谷 政志,小島 俊輔,村田 美友紀					
到達目標						
・様々な手法の活用と自由な発想により、アイデアを形にすることができる。 ・他者とコミュニケーションを図りながら、主体的に取り組むことができる。 ・課題を完成させるまで、意欲的に取り組むことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	優れたアイデアを形にして、完成度の高い作品に仕上げるができる		考えたこと、想像したことを形にして表現することができる		考えたこと、想像したことを形にして表現することができない	
評価項目2	担当教員や受講生と頻繁に相談、あるいは協働しながら、課題の完成に向けて取り組むことができる		担当教員や受講生と相談。あるいは協働しながら、課題に取り組むことができる		担当教員や受講生と相談、あるいは協働しながら、課題に取り組むことができない	
評価項目3	制作予定時間を十二分に使って、意欲的に自分の課題に取り組むことができる		制作予定時間内で、自分の課題に取り組み、完成させることができる		製作時間内で、自分の課題を完成し、提出することができない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	クリエイティブアーツとは、アイデアを形にする様々な手法である。本科目では、様々な活動を通して、仲間とともに、アイデアを形にする楽しさ、喜びを味わうことで、創造的な技術者になるための素質を養う。					
授業の進め方・方法	複数のコースから、学生が4つのコースを選択し、それぞれの教員の指導に従って活動を行う。原則、1コース四半期とし、与えられた課題を完成、提出させる。					
注意点	各コースの課題を評価対象とするので、必ず提出期限内に課題を完成させた上で、担当教員に提出すること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・コースの選択		各コースの内容を確認する	
		2週	コース1の制作①		コミュニケーションを図りながら主体的に取り組むことができる	
		3週	コース1の制作②		同上	
		4週	コース1の制作③		同上	
		5週	コース1の制作④		意欲的に取り組むことができる	
		6週	コース1の制作⑤		同上	
		7週	コース1の制作⑥		同上	
		8週	コース1の課題提出			
	2ndQ	9週	コース2の制作①		コミュニケーションを図りながら主体的に取り組むことができる	
		10週	コース2の制作②		同上	
		11週	コース2の制作③		同上	
		12週	コース2の制作④		意欲的に取り組むことができる	
		13週	コース2の制作⑤		同上	
		14週	コース2の制作⑥		同上	
		15週	コース2の制作⑦		同上	
		16週	コース2の課題提出			
後期	3rdQ	1週	コース3の制作①		コミュニケーションを図りながら主体的に取り組むことができる	
		2週	コース3の制作②		同上	
		3週	コース3の制作③		同上	
		4週	コース3の制作④		同上	
		5週	コース3の制作⑤		意欲的に取り組むことができる	
		6週	コース3の制作⑥		同上	
		7週	コース3の制作⑦		同上	
		8週	コース3の課題提出			
	4thQ	9週	コース4の制作①		コミュニケーションを図りながら主体的に取り組むことができる	
		10週	コース4の制作②		同上	
		11週	コース4の制作③		同上	

	12週	コース4の制作④	同上
	13週	コース4の制作⑤	意欲的に取り組むことができる
	14週	コース4の制作⑥	同上
	15週	コース4の制作⑦	同上
	16週	コース4の課題提出	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	前2,前3,前9,前10,後1,後2,後9,後10
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	前4,前11,後3

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	80	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	20	0	0	0	0	20